

省エネアクト for ゼロカーボンキャンパスの取組

東海国立大学機構では、キャンパスのエネルギー消費削減を推進し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組姿勢を地域社会へ積極的に示します。この取組の一つの指針となる「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」のもとに、大学全体として構成員による省エネ行動を推進しています。

東海国立大学機構では、エネルギー消費由来の二酸化炭素排出量を2030年度までに総量ベースで51%以上削減(2013年度比)する目標を掲げており、この目標の達成に向けて構成員の一人ひとりが省エネへの意識を高め、主体的に取り組んでいくことが重要となります。

2024年度に「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス2024」のもとで取り組んだ省エネ・節電活動のうち、好事例や特有の問題解決に向けて積極的に取り組んだ内容をグッド・プラクティスとして紹介します。

岐阜大学 グッド・プラクティス

全学の取組

空調改修

総合研究棟1、医学部看護学科校舎の一部及び第2食堂の空調設備を高効率機器に更新し、空調負荷を低減しました。

照明設備

教育学部附属小中学校の照明をLED化しました。

建物改修によるZEB化

教育学部A棟1期改修においては、ZEB Ready を達成しました。

夏季休業期間、年末年始休業期間における節電行動 『待機電力CUT』キャンペーン

節電意識

2024年度夏季休業期間、年末年始休業期間に『待機電力CUT』キャンペーンを実施したところ、夏季9日間の節電行動では通常の休日と比べて約4.6%の消費電力を削減でき、年末年始9日間の節電行動では通常の休日と比べて約13.0%の消費電力を削減することができました。環境負荷低減と電気料金削減の観点から、引き続き節電に努めていきます。



教育学部棟



節電リーフレット

大藪先生からのアドバイス

デコ活(環境省)をしてみよう!

今日から始める環境にもサイフにも時間にも優しい生活は
「チリも積もれば…」の精神で!

岐阜大学副学長 大藪 千穂 (教育学部家政教育講座教授)



食事編と光熱・水道編で年間42,000円の節約～その他もできれば12万円の節約。1ヶ月1万円は大きい!

食事編(お金とCO₂排出量)

- ごみの削減・分別・マイボトル活用 年3,800円減(28.8%減)
- 地産地消・食べきり 年8,900円減(5.4%減)
- 鍋には蓋(2割のエネルギー減) 年289円減(7.3%減)
- 煮物は落とし蓋を使おう 年1,901円減(48%減)
- はかり売り・自動決済 年3時間の余裕



その他編(お金とCO₂排出量)

- 公共交通・自転車・徒歩 年11,800円減(ガソリン代)(196.7%減)
- 良い服を長く着る、着なくなった服をリサイクルボックスに持ち込んでポイント還元
- テレワーク ガソリン代 年61,000円減(840.3%減)
- 年275時間の余裕を家族や趣味の時間に使える
- エコドライブ ガソリン代 年9,000円減(117.3%減)



光熱・水道編2*(お金とCO₂排出量)

- 電気ポットは必要な時にのみ沸かす 年2,360円減(59.6%減)
- 冷暖房設定温度の見直し(クールビズ・ウォームビズ) 年3,900円減(40.6%減)
- 冷蔵庫を涼しい場所に置こう 年990円減(25%減)
- 冷蔵庫の温度設定は季節に合わせる 年1,360円減(34.3%減)
- 熱い物はさましてから冷蔵庫へ!
- LED照明に変える 年2,900円減(27.2%減)、取換回数:蛍光灯の1/7
- 節水(キッチン・洗濯機・シャワー・トイレ) 節水型シャワーヘッド、アダプタ導入で 年15,600円減(104.7%減)



※光熱・水道編1は環境報告書2024で確認しよう!
参考資料:環境省、鳥取県南都町

▶ デコ活(環境省)

<https://ondankataisaku.env.go.jp/dekokatsu/>



文系地区の取組

ピークシフト

電力ピーク時間帯に自習室の使用を控えるよう掲示を行い、ピークシフトに努めました。

農学部取組

節電ワーキンググループによる対策立案

節電ワーキンググループを組織して、エアコン室外機の散水による省エネルギーの可能性検討や、恒温室の電力計測をして運用改善に向けた情報収集を行いました。

理学部取組

省エネ改修

- 部局予算により、共用部の人感センサ付きLED照明化を進めました。
- 野依記念物質科学研究所の空調改修において局所排気装置室の実験排気量を見直し、外気導入量を大きく削減して空調負荷を低減しました。

情報学部取組

節電意識の醸成・周知

- 早期退勤、リフレッシュ休暇・年末年始の休暇取得やテレワークを促して、節電に努めました。
- 省エネ啓発ポスターをエレベーター内・各階乗降口、講義室・セミナー室に掲示しました。また、講義室の空調操作パネルに省エネ啓発ラミネートを貼り適正な温度管理を呼びかけるとともに、警備員による施錠時に適正温度設定に戻しました。
- トイレ内のハンドドライヤーを使用停止にしました。

全学取組

省エネマインドの醸成

- 省エネアイデアコンテストのキャッチコピーを継続し夏期及び冬期に省エネ啓発ポスターを作成しました。また、空調リモコン用ステッカーを作成し、講義室等に掲示しました。
- SNSを活用し、本学の省エネ活動の取組を広く周知しました。
- GW及び年末年始等の連休休暇中において、省エネ対策と休暇中の安全確保について構成員に呼びかけました。

講義室の調査

- 定員150人以上の講義室25室を対象に、講義終了後の照明・空調スイッチOFF、空調設定温度の状況調査を実施し、各教室の運用実態を各局局管理担当者にフィードバックし、改善を促しました。

講義終了後の スイッチ状況	夏季(6/17~8/9)		冬季(12/16~1/31)	
	第1週	最終週	第1週	最終週
照明OFF	19/25室	25/25室	23/25室	24/25室
空調OFF	11/25室	23/25室	22/25室	24/25室
設定温度(平均)	25℃	26℃	23℃	23℃

- 暖房期間中に、全学教育棟本館及びA館の講義室36室に対し、講義中の換気設備運転状況、設定温度、扉開閉状況を調査した結果、換気設備の使用を徹底し必要に応じて自然換気を取り入れるなど、一部改善の余地があることが確認できたため、今後の対策につなげていきます。

空調改修

IB電子情報館の空調エネルギーのおよそ13%削減を見込み、空調設備41系統を更新しました。

照明設備

全学教育棟及び小規模建物の照明エネルギーのおよそ50%削減を見込み、照明器具約2,100台をLED器具に更新しました。

建物改修によるZEB化

- 大規模改修計画にあたり、学内建物のZEB化を図っています。
- 新築建物のTokai Open Innovation Complex 名古屋、Common Nexusでは、ZEB Readyを達成しました。

工学部取組

ピークシフト

ピーク時に電力使用量の大きい実験機器の稼働を減らすため、ピーク時から時間帯をずらして実験研究を行いました。

研究所地区取組

換気抑制

新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い必要時間帯以外の常時換気を見直し、換気設備の運転を適性化しました。



省エネポスター 2024年



空調リモコン用ステッカー